



イチゴ用温湯散布装置 「ゆけむらー」

平成24年11月新発売

3つの効果

- 温湯の熱ショックによる病害抵抗性の誘導（特許第4863305号）
- 熱による殺菌・殺虫
- 付着病害虫の洗浄

導入メリット

- 農薬使用量を1/3に削減した事例あり
- ミツバチ，マルハナバチにも安心
- ガス給湯器の燃烧ガスを炭酸ガス施肥にも使用可能
- 生産物に対してブランド名「湯莓」（登録商標），マスコットキャラクター「湯莓あみ」の使用が可能

研究・開発

茨城大学

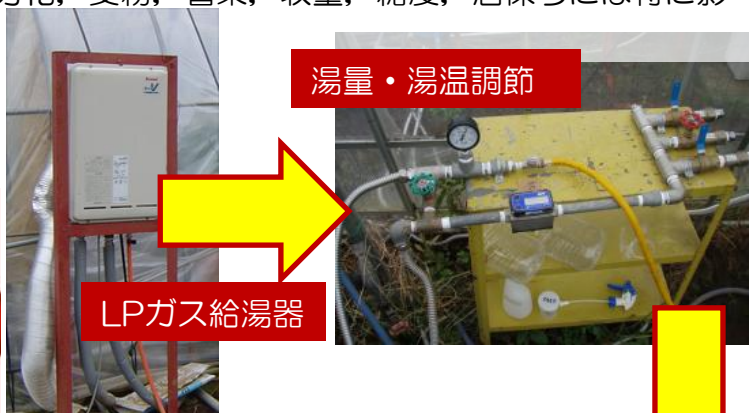
茨城県農業総合センター園芸研究所 理化学研究所

茨城県工業技術センター カンプロ株式会社



ゆけむらーの使い方

1. 給湯器等と接続し、60~63℃の温湯を分速50cm程度で散布します。イチゴの株のうち最も温湯散布ノズルに近い葉が20秒間、50℃に維持されることが最適処理条件です。この処理を1週間に1回、繰り返します。
2. 温湯処理後はハウス内が高湿度となるため、処理は晴天日の午前中に行い、速やかに換気して植物体を乾かします。燃烧ガスを炭酸ガス施肥に利用する場合は、密閉した別のハウスにガスを放出します。
3. うどんこ病の予防に効果があり、アブラムシ類やオンシツコナジラミの発生を抑制しますが、灰色かび病やハダニ類の発生後の防除は困難です。したがって慣行農薬による初期防除が重要です。
4. 炭疽病は育苗期の防除が重要です。育苗中に温湯処理を行うと炭疽病に対する抵抗性が誘導されますが、発生後の防除は困難となるため慣行農薬による防除を行って下さい。
5. 最適処理条件の場合、イチゴの生育、花芽分化、受粉、着果、収量、糖度、店保ちには特に影響は認められていません。



ゆけむらーの機器構成



お問い合わせ先
製造・販売 朋友株式会社
〒310-0835 茨城県水戸市元台町1465-1
Tel: 029-248-1031 Fax: 029-248-1065
E-Mail: for.you@grace.ocn.ne.jp

本装置は、(独) 科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合支援事業 重点地域研究開発推進プログラム 平成19年度「シーズ発掘試験熱ショックを利用した農作物の病害抵抗性誘導技術の開発と応用」の成果として取得した特許「農業用植物の熱ショック処理装置及び熱ショック処理方法(特許第4863305号)」をベースとし、農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「温湯散布による施設イチゴの農薬使用量削減と保鮮技術の確立」により開発されました。